<社会貢献活動に取り組む労働組合 ③> 地域社会との連携を強く

ユニチカユニオン宇治

支部委員長 山田良尚



今回紹介する社会貢献活動は、京都府南部に位置する宇治市を拠点に活動されているユ ニチカユニオン字治の取り組みです。

労組のある宇治市は、日本茶の産地として全国的に有名ですが、ユニチカ以外にも任天 堂やパナソニックなど、多くの日本の主要企業の生産拠点を有し、約19万人の人が住む、 京都市に次いで府内で2番目に人口の多い都市でもあります。

そして、昨年12月には、連合京都などの推薦を受けられた関電労組出身の山本正市長が 2期目の当選を果たされ、私たちにとっても身近な自治体でもあります。

ユニチカユニオンとしては、25 年の長期にわたって幅広い社会貢献活動を国内外で続け て来ておられますが、宇治市においては社会福祉法人「山城福祉会」と連携して、身体、 精神、発達のハンディを持っておられる方の「働く」を応援する施設、「槇島福祉の園」と 知的障害のある人たちの通所型福祉施設「志津川福祉の園」におけるイベントのお手伝い などに取り組んでおられます。

こうした地域に根差した労働組合の社会貢献活動によって、その地域がより住みよい街 になっていけばと期待を持って紹介させていただきます。

(京都自治総研理事長 木村幹雄)

はじめに

現在、ユニチカユニオン宇治支部は、2014 年 10 月に宇治地区にあった 3 支部を統合し 10 年が経過をしています。統合前は、宇治支部・ 京都支部・中研支部が、各々の支部の中で、各 種活動を展開していましたが、2014 年 10 月よ り1つの支部として活動を展開中です。

ユニチカのボランティア活動

ユニチカユニオンとして、結成20周年を迎

えた 1991 年に、「労働組合も、より社会へ貢献 しなければならない」との考えから、第20回 定期中央大会において「ボランティア基金」の 設立を決定し、翌年の 1992 年から「ボランテ ィア基金」を発足しました。現在も継続中です。 このボランティア基金は、組合員一人ひとり の拠出金額(月額100円/人)に加え、管理職 の方々からも、協力金として参加をいただいて います。

拠出内容としては、地域でのクリーン活動、 福祉施設への支援、国内・海外(東南アジアを



海外青年協力隊参加者

中心)への各種カンパ活動、マッチングギフト 等への拠出となっています。マッチングギフト は、福祉施設等への支援金として各支部が用意 している同額の金額を、ボランティア基金から 拠出し、より幅広い支援内容になるようにして います。

1993年には、ユニチカの各支部に「ボランティア専門部」を設置し、各支部内においてボランティア関連の活動について、専門部を中心に活動を展開するようになっています。宇治支部においては、現在13名の組合員で活動を展開しています。

1994 年には「ボランティア休暇制度」が、 対象を海外青年協力隊に限り、発足しました。 現在、全支部の中で組合員3名が、ボランティ ア休暇制度を取得しています。

また、アジア協会アジア友の会(JAFS)と連携し、海外ワークキャンプへの参加募集等も展開しています。宇治支部では、現在までに 18 名が参加しています。その活動は、フィリピン・インドネシア・ネパール等で、飲料水のパイプラインや学校建設等に携わっています。

2002 年、ユニチカユニオン結成 30 周年を記念とし、その年の 10 月から「緑のプラン」を発足しました。「森林保護の取り組みを進めることで自然の大切さを学び、環境問題に対する意識の高揚をはかると同時に、従業員のリフレ

ッシュの場、レクリエーションの場を提供すること」を目的に、和歌山県日高川町(旧中津村)の森林 2 ha を借り、毎年 9 月上旬に、各支部より参加者を募り、下草狩りや体験プランを通じてボランティア活動として展開中です。

ユニチカユニオン宇治支部の活動

現在、ユニチカユニオン宇治支部としては、 ボランティア活動について「ボランティア専門 部」を中心に進めています。

ボランティア専門部の構成も、なるべく一般の組合員の方々に参加していただきたいという 思いから、過去に組合の機関要員に携わっていない方々に専門部になってもらっています。

「ボランティア専門部」の意味合いとしては、「組合員の方々にボランティアメニューの提示と、より多くの組合員・家族の方々にもボランティアに参加をいただくなかで、広がりを見せていくこと」であると思っています。

そのためには、一度はボランティア専門部員 として各ボランティア行事に参加すること。そ うでなければ、組合員の方々に勧めることも、 お願いすることもできないと考えています。

また、メニューの提示は、部内でボランティアの内容に特化した機関紙「amigo (アミーゴ)」を、月1回を目標に発行し、メニューの提示や募集、活動結果を掲載しています。



ボランティア機関誌

ボランティア専門部の主な活動内容

各種研修会や機関紙の発行

年に1回、ボランティア専門部の研修会を開 催し、意味合いや活動計画、車イス体験や盲導 犬についての理解を深めるため、体験学習等も 行っています。

月1回の「専門部会」のなかでは、活動結果 や予定等の報告と機関紙掲載の内容確認を行っ

ています。

市内の福祉施設との連携

・年間を通じては、

春:福祉施設の「開園祭」の模擬店のお手伝 い(缶バッチや音響コーナー担当)。 福祉施設のバーベキューのお手伝い。

夏:福祉施設の「夏祭り」の模擬店のお手伝 い (金魚すくいや音響コーナー担当)。

秋:福祉施設の「わくわく祭」の模擬店のお



模擬店 うどん販売



車イス体験学習



バーベキューのお手伝い



模擬店 金魚の担当



クリーン活動



模擬店 缶バッチ担当

手伝い(うどん250食の販売)。

冬:福祉施設のもちつきのお手伝い。

- ・3カ月に1回程度のペースで、事業所周辺の クリーン活動。
- ・各種自然災害発生時にカンパ活動。

を実施しています。

福祉施設の中には、設立当時(20年前)から各種模擬店等のお手伝いを通じ、連携を密にとらせていただいている施設もあります。

アルミリサイクル活動

「プルタブから車イスを」ということで、現在はアルミ缶とプルタブ回収を、組合員や家族の方々、ユニチカの各支部からの協力も得ながら、「誰でも参加できる、息の長い活動」として継続中です。

2011年には、本部とのマッチングギフトも



アルミリサイクルの実績

活用するなかで、宇治市内の NPO 法人に車イス3 台、折りたたみ式電動ベッド、介護用ポータブルトイレ、介護用ミニ平行棒を寄贈しました。2016 年 10 月には、宇治市の社会福祉協議会に、車イス2台、餅つき機1台、プロジェクター1台、ブルーレイレコーダー1台を寄贈しました。

また、「プルタブから車イスを」の合言葉で スタートしてきましたが、近年「車イス」だけ でなく、各種介護用品や地域の方々に使ってい ただける、社会福祉関係にも役立てていただけ る方向に変化をしています。

現段階での活動に対する課題

この活動の課題としては、ボランティア活動について、各福祉施設の模擬店のお手伝いは週末(土・日)となっているため、なかなか一般の組合員の方々からの参加が少なく、専門部からの参加者も固定化をし、執行部の協力無しでは困難となっていることです。

しかし、今後も、ボランティア専門部を中心に、近隣の福祉施設やクリーン活動、本部や上部団体の研修会に参加するなかで、より多くの組合員にボランティア活動に参加していただき、組合活動の柱のひとつでもあるボランティアについて理解をしていただくように、共に活動を進めていきたいと考えています。